

庄原市小・中学校一斉学力調査の結果【全国正答率との比較】

平成23年1月12日～14日実施 全児童生徒が参加 (単位：%)

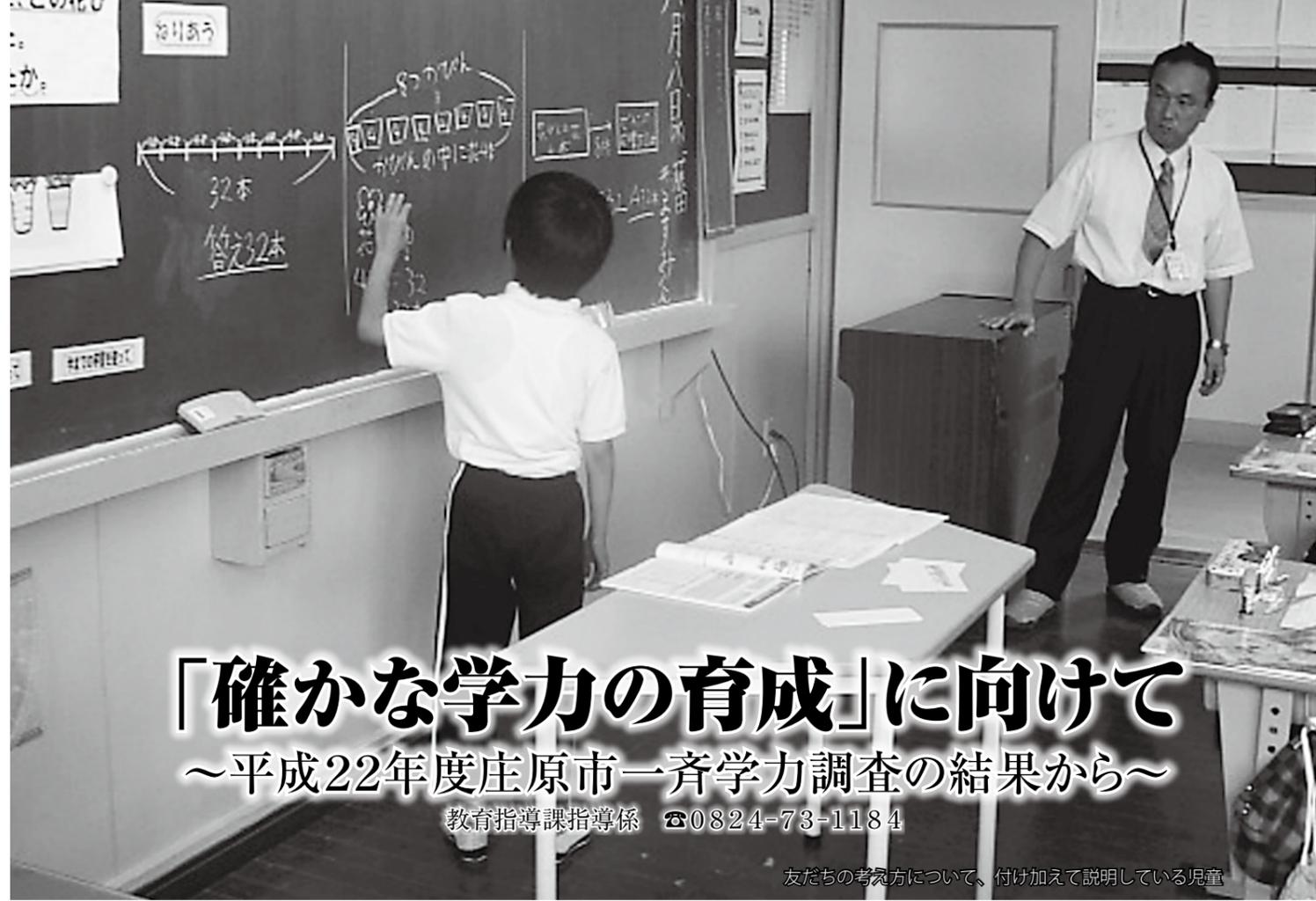
学年	調査項目	小学校				中学校					
		国語	社会	算数	理科	国語	社会	数学	理科	英語	
第1学年	庄原市	84.1		90.2		70.8	66.1	66.9	52.5	77.3	
	全国	84.2		88.8		69.0	65.7	64.6	53.5	74.4	
第2学年	庄原市	89.1		82.2		71.2	61.4	61.5	58.3	63.3	
	全国	86.9		79.8		69.5	65.6	61.8	63.0	62.2	
第3学年	庄原市	71.7	71.7	78.0	79.9	71.4	59.1	55.1	58.5	62.5	
	全国	68.7	73.6	74.5	79.5	70.6	60.7	57.4	59.2	61.6	
第4学年	庄原市	71.9	81.3	79.0	77.8	74.1	64.4	64.0	57.8	72.7	
	全国	68.2	78.2	78.1	74.2	72.4	66.6	64.4	60.0	71.5	
第5学年	庄原市	75.9	76.8	77.3	81.2	59.2	49.7	46.0	50.3	51.7	
	全国	72.0	71.8	74.1	79.8	58.5	49.2	45.0	51.7	48.5	
第6学年	庄原市	80.2	71.3	74.8	75.3						
	全国	78.1	70.7	75.3	73.8						
基礎 (全学年平均)	庄原市	83.2	78.8	83.6	81.3						
	全国	80.1	76.8	81.7	79.1						
活用 (全学年平均)	庄原市	54.0	56.4	62.6	66.5						
	全国	54.8	56.6	61.1	67.3						



研修会で議論する教職員

を踏まえ、授業をどのように改善していくか検討を行い、生活に関わる具体的な教材を多く取り入れるなど、知識技能を活かす活動に重点を置くことが必要だと確認しました。

また、中学校理科では、今まで実験や観察を重視してきましたが、予想と



『庄原版』学びのサイクル

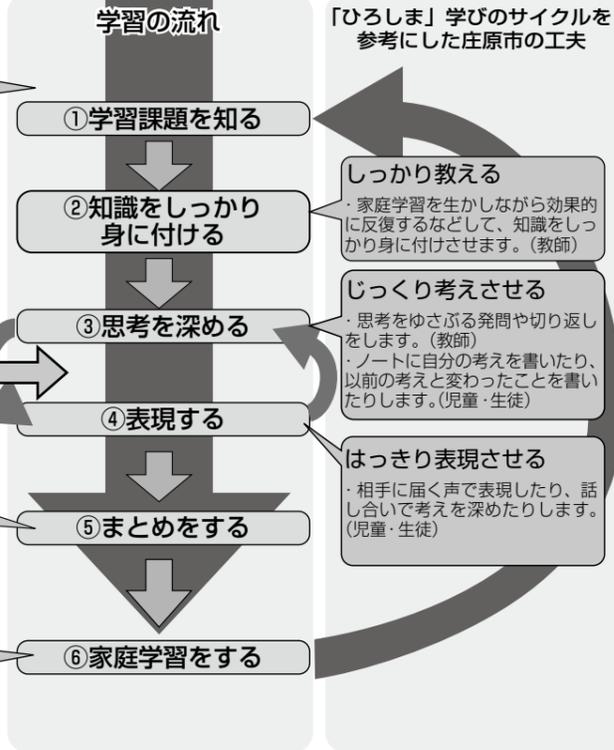
庄原市授業改善ポイント

やる気にさせる授業づくり
・授業ははじめに、学習のめあてを明らかにし、興味をもてるように工夫します。(教師)

重点事項 言語活動を充実する
・教科のめあてを達成するために、書いたり話したりする活動により、言語活動を充実させます。(教師)

授業を振り返る
・めあてを達成できたか振り返ります。(児童・生徒)

次の授業につなげる
・学ぶ意欲を起こさせる課題や一人一人に応じた課題を出し、次の授業につなげます。(教師)



しっかり教える
・家庭学習を生かしながら効果的に反復するなどして、知識をしっかり身に付けさせます。(教師)

じっくり考えさせる
・思考をゆさぶる発問や切り返しをします。(教師)
・ノートに自分の考えを書いたり、以前の考えと変わったことを書いたりします。(児童・生徒)

はっきり表現させる
・相手に届く声で表現したり、話し合いで考えを深めたりします。(児童・生徒)

結果から明らかになる部分(考察)に課題があることや、理解していると思われるのに、問題の答え方でつまづいていることが明らかになってきました。このことから、実験データなどを丁寧に理解することや、問題をじっくり読む力を育てる授業を行うことが必要だ

と確認しました。

市は、このような研修会を各教科で実施するとともに、学校での学びと家庭学習とを関連付けた授業方式(学びのサイクル)を確立しながら「確かな学力」の育成に取り組んでいきます。



ノートに図や式をかいて問題の答えを考えている児童



ペアで話し合い、問題解決している児童

分析結果から授業改善へ

5～6月に、庄原市の小・中学校の研修会を実施しました。この研修会は、

市内の小・中学校の児童生徒一人一人の学力向上のために、庄原市一斉学力調査などの分析結果を基に、児童生徒の学力の定着状況を把握するとともに、さまざまな視点から市の教育課題を明らかにし、授業の改善に取り組むことを目標にしています。児童生徒たちにとってどのような力を身に付けさせるかを明らかにし、そのための授業改善の方法を考えます。

市内の小・中学校では、本年度も「確かな学力」の育成のために授業の工夫・改善に取り組んでいます。「確かな学力」とは、子どもたちが社会に出て生きていくために必要な基礎的・基本的な知識・技能や、それらを活用して自ら考え、判断し、表現する力です。この「確かな学力」を向上させる柱として市は①基礎基本の定着と活用②ことばの教育の充実③教職員の授業力の向上―を掲げ、研修会を実施しています。

例えば、小学6年生算数科の分数の意味を理解する問題で正答率が低く、分数の計算を行う問題は、正答率が高い傾向にありました。ドリルなどを活用し計算の手順は身に付いているものの、計算の意味を問う面では課題があることがわかりました。このこと